

八十二銀行様

日本初、法人向けサービスにワンタイムパスワード認証を導入 インターネットバンキングに、利便性と信頼性の両立を提供

長野県の中核銀行として県内に約140店舗を展開する八十二銀行では、法人向けインターネットバンキングのセキュリティ強化策の一環として、NTTデータの共同利用型(ASP)サービス「ワンタイムパスワード認証サービス(BizEmotion®-OTP)」を導入した。ワンタイムパスワード認証を法人向けネットバンキングに導入するのは、全国でも初めての試みとなる。すべての法人ユーザーを対象に、キーホルダー型のトークンを配布、安心と信頼を目に見えるカタチで提供することで、利便性を維持しつつ、大幅な信頼性向上を実現している。

八十二銀行

本店所在地：長野市大字中御所字岡田178番地8

創立：1931年8月1日

資本金：522億円

事業概要：昭和初期の金融恐慌を背景に、長野県の経済安定化を目指して、当時の県内2大銀行であった第九銀行と六十三銀行が1931年に合併、両銀行名の数字を足した「八十二銀行」が誕生した。創立以来脈々と受け継がれてきた「健全経営を堅持し、もって地域社会の発展に寄与する」という経営理念を原点とし、顧客企業の経営支援および個人顧客との生涯取引銀行の実現に重点を置き、信頼され、役に立つ銀行を目指して、地域社会の発展に努めている。

URL：http://www.82bank.co.jp/index.html

ネットバンキングの利用増加に伴い より高度なセキュリティ確保を検討

長野県長野市に本店を置く八十二銀行は、『健全経営を堅持し、もって地域社会の発展に寄与する』という経営理念のもと、地元根深く、地域社会の安定と経済発展に貢献してきた。2002年には、さらなる利便性を提供すべく、法人・個人事業主向けにインターネットバンキング「ネットEB」のサービスを開始。いつでもどこでも安心して利用できるバンキングサービスの普及に努めている。



八十二銀行
執行役員 支店支援部長
竹鼻 賢一氏

ネットEBは、専用端末やソフトウェアの導入が不要であり、低コストで手軽に利用できることから、中小企業や個人事業主にも導入がしやすく、またその利便性が認知されるにつれ、大企業からも利用されるようになった。八十二銀行ではニーズの拡大に応じてサービスメニューの充実にも努めるとともに、より安心して使ってもらえるようセキュリティ対策も順次強化していった。

具体的な対策としては、ログイン時の本人認証手段として、複数のパスワードを利用する方法や、キーボードで入力した文字の不正記録を防ぐためのソフトウェアキーボードによるパスワード入力など、さまざまなセキュリティ対策を展開。その一方で、社会全体のセキュリティ意識の高まりを受けた2006年ごろから

は、より効果的で実効性のある対策を模索。最新のセキュリティ情報や、業界動向の把握に努め、多面的な検討を進めた。

窓口での本人確認と同等な対策を模索 ワンタイムパスワード認証を高く評価

ネットバンキングのセキュリティ対策として、八十二銀行では、インターネットのオープン性を考慮し、サービス利用時の入り口となるログイン認証を特に重要と考え、銀行窓口での本人確認と同等レベルの安全性が確保できるようなセキュリティ対策の実現を目指していた。

セキュリティ対策の位置付けについて、執行役員・支店支援部長の竹鼻賢一氏は、「銀行にとって、セキュリティの確保はサービスのまさに原点。サービスとセキュリティはビジネスの両輪として、お客さまのために自ら率先して取り組むことが大切です」とその重要性を強調する。さらに、新たなセキュリティ対策を導入する際の前提として、「ITスキルを持った一部のユーザーが優先的に参加するような手法ではなく、すべての法人ユーザーを対象に一律に導入し、誰でも手軽に利用しつつ、セキュアな環境が維持できるような実用性の高い対策を求めています」と説明する。

そして、利便性とセキュリティの両立が図れる認証方法を模索する中で浮上したのが、一定時間でパスワードが変化する「ワンタイムパスワード」を用いたログイン認証だった。従来の固定パスワードとは異なり、「トークン」と呼ばれる小型デバイスが生成するパスワードを用いてログイン認証を行うもので、一定時間でパスワードが変化するため、なりすましな

どの不正アクセスを極めて高いレベルで防御できるのが特長だ。

八十二銀行では、インストールや定期的更新が必要な電子証明書による認証と比較しても、はるかに手軽に利用できるというメリットに加えて、専用のトークンを配布して利用するという利用形態にも意義があると考えた。支店支援部・IT企画グループ・グループ長の本木芳茂氏は、「金庫などに保管できるトークンは、まさに印鑑にかわるものであり、企業文化にもなじむため、大きな安心につながります。すべての法人ユーザーにトークンを配布することはコストを要しますが、信頼とセキュリティへの投資は銀行として当然の責務。考えられるベストな対策として、トークンを用いた認証方法を選択しました」と語る。



八十二銀行
支店支援部 IT企画グループ長
本木 芳茂氏

こうして八十二銀行では、ワンタイムパスワードを用いたログイン認証システムの導入に向けて、本格的な検討を開始。さまざまなサービスを比較・検討した結果、有力候補として挙がったのが、NTTデータの「ワンタイムパスワード認証サービス」だった。

システムベンダーと緊密な連携を図り ワンタイムパスワード認証をASP提供

NTTデータの提供する「ワンタイムパスワード認証サービス(BizEmotion®-OTP)」は、これまでの実績が豊富な「RSA SecurID」を

用いた共同利用型(ASP)サービスである。パスワードの認証はNTTデータの認証センターで行われるため、多大な開発コストを要することなく、迅速に導入できるのが大きなメリットだ。また、個人向けにはすでに多くの金融機関への導入実績があり、信頼性にも自信を持つ。

NTTデータのサービスを選定した理由について、支店支援部・IT企画グループの丸山哲氏は、「多くの導入実績や優れたサービス内容に加えて、既存のシステムベンダーとの柔軟かつ万全な連携が必須でした。膨大な数の法人ユーザーを対象に、利便性を損なうことなく、安心と信頼を届けることが、本システム導入の大きな目的。全国の金融機関への豊富な実績を有するNTTデータが、今後の保守運用も含めて、まさに適任と考えました」と述べる。

八十二銀行では、ネットバンキングのシステム開発を他のシステムベンダーにアウトソーシングして運用していた。そのため、「ワンタイムパスワード認証サービス」の導入に際し、NTT



八十二銀行
支店支援部 IT企画グループ
丸山 哲氏

データには、既存システムベンダーと緊密に連携して導入を進めることが求められた。

銀行のシステムはトラブルが無いことが非常に重要であり、新しい仕組みを導入する際は仕様検討や各部署との調整にどうしても長い時間がかかる。NTTデータは、検討段階で生じるさまざまな課題に柔軟に対応し、既存のシステムベンダーとの連携を強化しつつ、準備を進めていった。

「検討には時間がかかるが、いざ導入が決まれば、今度はお客様のために1日も早く導入してセキュリティ強化を図りたい。検討からシステム導入に至るまで、そうした要望にNTTデータは真摯に応じてくれ、パートナーとして非常に信頼できるものでした」と丸山氏が語るように、導入決定後は非常に短期間でシステムを構築、トラブル無く運用開始することに成功した。

また、「ワンタイムパスワード認証サービス」の導入に際して、利用者がスムーズに移行できるように、サービス開始の約半年前から新システム導入を全法人ユーザーに告知。同時に、利用マニュアルの作成やコールセンターの設置など、用意周到に作業を進めていった。新たなログイン画面についても、直感的に理解できるよう、画面の見やすさや操作のしやすさにこだわったという。

全ての法人ユーザーにトークンを配布 利便性とセキュリティの両立を実現

八十二銀行の「ワンタイムパスワード認証サービス」は、2009年2月にスタートした。開始直後の短期間で大多数のユーザーが登録手続きを完了するなど、関心の高さをうかがわせるサービスとなっている。すべての法人ユーザーに対し、約14,000個のトークンを配布、トークンはネットバンキングに不可欠な“電子ハンコ”として、大切に取り扱われ、毎日の業務に役立てられているという。

「このような大がかりなシステム変更を行った場合、クレームやトラブルの発生が多々発生することが懸念されますが、混乱はほとんどなく、コールセンターでの通常応対で解決できています。これは驚くべきこと。何より手軽に、かつ直感的に利用できることが、抵抗なく受け入れられている大きな理由かもしれませんね。」(本木氏)

なお、NTTデータの「ワンタイムパスワード認証サービス」は、携帯電話用のアプリケーションにも対応し



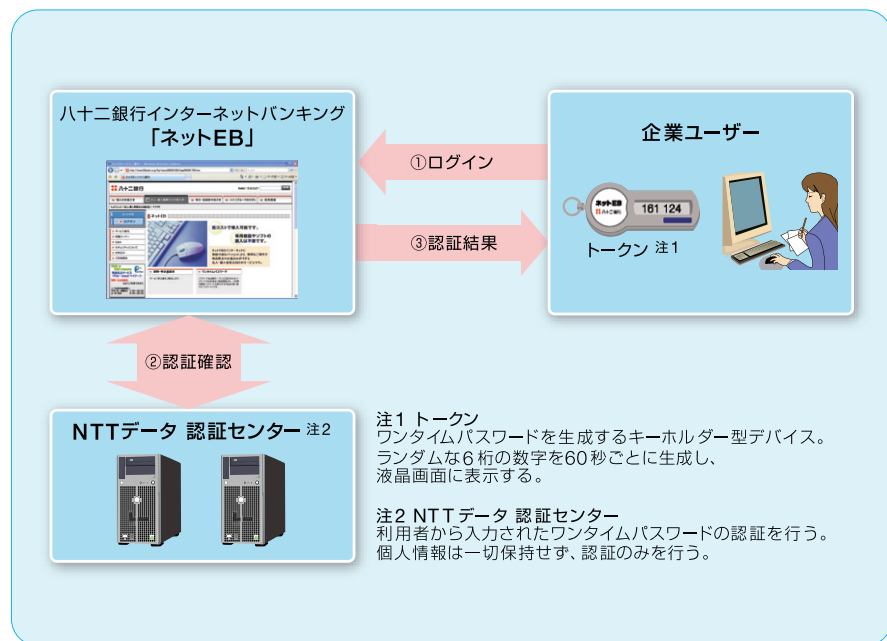
RSA SecurID

ており、ソフトウェアトークンとしても利用可能である。現行の通信キャリアのほぼすべての機種を対象に検証を行い、動作確認が図られており、実用性に優れたサービスとなっている。

「今回、サービスメニューの拡充と並行して、よりセキュアな環境を提供できたことは、大きなアピールポイントになりました。法人向けとしては日本初導入という本サービスを、安全性向上のツールとして顧客企業に役立ててもらう一方、顧客の新規開拓や囲い込みにも積極的に活用したいですね」(竹鼻氏)

八十二銀行では、フィッシングサイト閉鎖サービスの導入など、セキュリティ強化に向けた対策を引き続き展開している。個人向けインターネットバンキングにおいても、本サービスの導入も視野に入れつつ、セキュリティ強化を図っていく考えだ。

NTTデータでは、今回の導入を通じて培った信頼関係に基づき、これからもセキュリティ強化や利便性向上に貢献する先進ソリューションを提案、八十二銀行のビジネスを積極的にサポートしていく。



株式会社NTTデータ

ビジネスソリューション事業本部
ICメディア&Webサービスビジネスユニット ICメディア企画担当
TEL.050-5546-8337
<http://www.nttdata.co.jp/services/casestudy/> (お客様事例)